lejeunea. J. Hattori Bot. Lab. **49**: 305-318.

* * * *

琉球列島南端域の八重山群島で採集された蘚苔類を研究中，クサリゴケ科苔類について次の新知見が得られたので報告する。

1) 石垣島の於茂登岳で採集された1標本は，雌花が1本のインノベーションをもつことから近縁の *Leptolejeunea* 属から区別され，*Drepanolejeunea* 属の1種と考えられる。しかし，植物体が小形で葉の背片先端が尖らないこと，また雌苞葉の背片先端が円く全縁であることなどの特徴から，同属の既知種と区別されるので新種として記載した。本種の葉形は，*D. erecta* に似ているが，後者は雌苞葉の背片が鋭頭で鋸歯があることなどの点で明らかに異なる。

2) *Euosmolejeunea fuscobrunnea* は Horikawa (1934) によって西表島から記載されたものであるが，今回筆者はそのタイプ標本を調べ，原記載文で見落とされていた葉の眼点細胞を認め，*Ceratolejeunea oceanica* に他ならないことを確認した。本種は熱帯アジアを中心に，八重山群島を北限として分布するものである。

□趙継鼎・徐連旺・孙曾美: **中国地衣初編** (Zhao Ji-ding, Xu Lian-wang & Sun Zeng-mei: Prodromus lichenum Sinicarum) 156 pp., 46 pls. 1982. 科学出版社，北京. 2.70元. 中国で出版された最初の地衣類の学術的紹介書といってもよい。それぞれの属で種の検索表を示しながら，ウメノキゴケ属 *Parmelia* (センシゴケ属，フクロゴケ属を含む) 82種，サルオガセ属 *Usnea* 64種，ムカデゴケ属 *Physcia* 42種，ゲジゲジゴケ属 *Anaptychia* 34種の計222種が収録されている。ほとんど伝統のない中国で，これだけの種を独力で検索するのは大変な努力だったと思われる。しかし，ウメノキゴケ属については，朝比奈泰彦: 日本之地衣 第2冊 ウメノキゴケ属 (1952)，サルオガセ属は朝比奈泰彦: 日本之地衣 第3冊 サルオガセ属 (1956)，ムカデゴケ属は J.W. Thomson: The lichen genus *Physcia* in North America (1963)，ゲジゲジゴケ属は S. Kurokawa: A monograph of the genus *Anaptychia* (1962) にほぼ準拠している。学名と文献以外は中国語で書いてあるために充分理解できない点もあるが，これを出発点としてこれからの研究の発展に期待したい。巻末の図版46葉には本文に書かれている変種，品種を含む全ての taxon の標本の写真が示されているが，やや鮮明を欠く点が惜しまれる。

(黒川 逍)